## 労協連だより

古村　伸宏

ひたひたと忍び寄る恐怖。この秋、新型インフルエンザの猛威が、社会を混乱に落とし込むかもしれない。センター事業団が開発した「クリーンキラーA」が、協同労働運動の救世主となり、命を守るコミュニティづくりに、必要不可欠になりそうだ。

「クリーンキラーA＝次亜塩素酸水」の詳細はひとまず横に置き、この安全で人体に元来備わる武器を、一人ひとりの身体を守るだけでなく、コミュニティ空間の防衛手段として、広く普及していくために、本格的なプロジェクトを立ち上げる。昨年来、本部では「クリーンキラーA」を超音波加湿器で空間噴霧し続けている。細かなデータを取っている訳ではないが、風邪を引く人は激減し、個人が所有する携帯用で口や鼻などに噴霧し続けている人たちは、その効果も大きい。私も、ことあるたびに顔中に噴霧し、帰宅時には家中に噴霧するのが日課になっている。

インフルエンザ対策は、専ら「感染後」に重点が於かれ、予防対策は手洗い・マスクに健康管理という特別なものは示されていない。何よりも、感染経路に対する手立ては皆無に等しい。私たちの職場の中でも、医療機関のほか、免疫の弱い高齢者・子どもを対称にしたところでは、空間に対する対策としてクリーンキラーAを活用中だ。事業的な意味ももちろんあるが、「組合員や利用者の命を守る」ために、共済も活用したクリーンキラーAの普及を全面的に行うことを予定している。

法制化を巡る状況は、民主党政権の誕生によって、いよいよゴールが見えてきたが、一方で引き締め直しを図る段階でもある。議連参加議員は、今回の選挙で約3/4に縮小した。また、役員メンバーの入れ替えも急務である。そして、民主党から打ち出された「議員立法原則禁止」の壁も越えていかなくてはならない。最後の正念場であり、国会開会までに、これらの課題を全てクリアし、年内成立をぜひ実現したい。地方議会の意見書は700に迫り、法案の中身の検討経過を知らせる中で、条例づくりをはじめとする「生かす」検討が地域で始まっている。

２月22日に豊田市で開いた「雇用シンポジウム」に参加された、ラテンアメリカセンターの代表からメールが届いた。保見団地に住むブラジル人たちの支援の延長線上で、「ワーカーズコープ保見が丘」を立ち上げたという。シンポを通じて、労働者協同組合をつくって仕事をおこそうという動きが本格化した。各地で今、困難を抱える人々の中から、法制化を先取りする組織づくり・仕事おこしを始めた、という知らせが届く。こうした動きをしっかり支え、推進していく役割が始まっている。

今年も残すところ３カ月を切った。再び「年越し派遣村」を必要とする事態を迎えるのかどうか、一刻も早い法制化と共に、具体的な対応策が求められる。私たちの最

大の焦点は、抜本的に組み立て直した「職業訓練」を中心にしながら、就労・自立を支援する、新しい社会システムの提案とその実行である。各地で「協同労働」で培ってきた文化で描いた職業訓練の企画が仕上がり始めている。自立支援産業を育て、人間が育つ地域づくりを仕事とする人々が、この中から育ち、協同労働と仕事おこしを普遍化する時代の到来がすぐそこにある。

## 研究所だより

田嶋　康利

働く者や市民が協同で出資し、事業経営を担い、人と地域に役立つ仕事を創り出していく新しい働き方である協同労働が、法制化を前に大きく注目を浴びるようになってきた。「『協同労働』の試み－仕事づくりで新しい芽」(中国新聞９/７社説)、「『失職者の起業』支援－労働者協同組合29日から講習会－『創職めざす』」(朝日新聞埼玉版９/23)、「今日の話題－新しい働き方」(北海道新聞９/24)と連続した新聞報道がされ、そして11月10日にはテレビ東京『ガイアの夜明け』の中で、ワーカーズコープの実践が紹介される。先日開催された法制化市民会議幹事会では、これら協同労働が紹介される絶好の機会を生かし、早期制定をめざして法制化運動をさらに大きく広げていくことを確認した。

「協同労働の協同組合」法の目的･趣旨は、市民会議が作成した法案要綱にも記載されているが、「働く者・市民の自発的な就労機会の創出」と「その事業活動を通じた地域社会の活性化に寄与する」の２点である。特に、今秋から年末にかけて失業のさらなる悪化が予想される中で、「就労機会の創出」は喫緊の課題であり、政府は「年末に向けて雇用対策を打ち出す」としているが、笹森市民会議会長は「最大の特効薬は、協同労働の協同組合だ」と強く訴えている。

法制化市民会議・埼玉では、埼玉県労福協等と連携・協力(「雇用と就労・自立支援カンパ」:通称「トブ太カンパ」を活用)し、非正規労働の現場で失職した若者たちを対象にした「ワーカーズコープ起業支援講習」を９月29日より開講した。講習は、来年の１月まで続くが、最初の１カ月間を生活慣習やコミュニケーション能力の再構築に充て、ワーカーズコープの介護・福祉・食・清掃・物流など現場で働く組合員たちが講師を担う。残りの３カ月間は具体的な事業計画や予算づくり、仕事おこしに必要な知識を習得する内容である。講習には、協同総研会員の青砥先生(前上尾高校教員)の教え子など大学生ボランティアも５人参加。守本事務局長は、「失業者には企業に一方的にクビを切られた人もいる。就職ではなく、仕事をつくる“創職”という選択肢を広めたい」と、仕事おこしへの強い意欲を語っている。この講習は、法制化時代に相応しい職業訓練の新しい段階を切り開くものになるだろう。また、講習の中間集約として、

10月24日には『社会的排除からの挑戦～協同労働・社会的企業による仕事おこしへ～』と題した研究会を、市民会議・埼玉と協同総研との共催で開催する。これらの実践は、發見誌次号の特集「新しい働き方―協同労働による仕事おこしの歴史と展望」(仮称)の中で紹介していく予定である。

協同労働とは何か、協同労働による仕事おこしとはいかなるものか、協同労働の事業・経営の基本原則とは何か、これらを鮮明に示していくことが、協同労働運動と法制化運動を大きく広げるポイントになるだろう。協同総研では、引き続き全国各地の協同労働の実践に学びながら、研究活動を進めていきたい。

## 新入会員(2009.9.1 ～ 9.30)

小田切 徳美(明治大学農学部教授、農政学、農業・農村政策論、地域ガバナンス論)

深澤 直人(神奈川県立座間養護学校、進路支援担当)

横山 英信(岩手大学人文社会学部教授、農業経済論)

岡本 志都子(労協センター事業団本部)

## 研究所活動日誌

09/02(水) 「食・農・環境事業推進」事務局会議

09/03(木) 佐野淳也先生(立教大学大学院准教授)ゼミ訪問(田嶋、榎本)

09/04(金) 労協連・高齢協連合同理事会／石田正昭先生(三重大学大学院教授)、山本敏幸氏(JA全中)打合せ(島田、古谷、田嶋、榎本)

09/05(土) 日本労協連30週年記念フォーラム

09/06(日) 日本労協連30週年記念レセプション

09/11(金) 全国所長会議

09/12-13(土－日) 日本協同組合学会第29回大会@酪農学園大学(岡安、田嶋、榎本)

09/16(水) 協同総研事務局会議

09/17(木) ケアワーカー集会2009実行委員会(田嶋)／新たなセーフティネット～本当に使える制度にしよう!9.17集会(田嶋、榎本)／池袋都市農村拠点づくり会議(榎本)

09/18(金) 栃木県議会自民党県議団への法制化趣旨説明(島村)／ケアワーカー集会呼びかけ統一行動(渡辺、榎本)

09/19(土) 協同総研第２回理事会、学習会「市民社会と公共性」(島村博氏)

09/24(木) 社会的企業研究会(岡安、田嶋)

09/25(金) 議連会長、坂口力先生と臨時国会中の法案採択をめざす件について